



梅島小だより

「基本に立ち返る」

校長 江原 敦史

江戸時代の儒学者に、細井平洲（1728-1801）という方がいます。

この方は、教育について様々な示唆を後世に残した方で、我々教師はもとより子どもの教育に関わる全ての方が心しておくべき言葉がいくつもあります。

新年にあたり、基本に立ち返って心新たに教育に当たるために、細井平洲の言葉を紹介したいと思います。

「（中略）すべて人を取育て申す心持は、菊好きの菊作り候様にはいたすまじき儀にて、百姓の菜大根を作り候様にいたすべきことに御座候。

菊作りの菊を作り候は、花形見事にそろひ候菊ばかりを咲かせ申したく、多き枝をもぎとり数多のつぼみをつみすて、のびたる勢いをちぢめ、わが好み通りに咲くまじき花は、花壇の中に一本も立たせ申さず候。

百姓の菜大根作り候は、一本一本を大切にいたし一畑の中には上出来も有へぼも有、大乘不揃に候ても、夫々大事に育て候て、よきもわるきも食用に立て申事に御座候。此両様の心持を弁へ可申事に御座候。（後略）」

（出典：「櫻鳴館遺草」）

<口語訳>

「（中略）人を教えるうえでは、菊好きの人が菊を作るようにしてはならないもので、百姓の菜・大根を作るようにと心得ねばならないものでございます。

菊好きの人が菊を作るというのは、『花、形が見事に揃うよう、立派な菊の花ばかりを咲かせよう』として、多くの枝をもぎり取り、過ぎた蕾は摘み取って、伸び過ぎたところは切り揃え、好みどおりに仕立て、咲かない花は、花畑の中に一本もないようにするもの。

しかし、百姓の菜・大根作りというのは、『一本一本も大事にして、畑の中には、上手に育ったもの、そうでないもの、へぼなものもあつたりして、大きさも小ささまざまに不揃いなもの。それらを、それぞれに、大事に育て、よくできたもの、そうでないものも、食の用に立つようにと育てるもの』です。（後略）」

新年にあたり、改めまして、子ども一人一人の個性、特性を見極め、大事にしながら、一人一人のよさを引き出せるような教育に当たってまいりたいと思います。

保護者・地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。